

第4学年1組 国語科学習指導案

令和3年12月3日 第5校時

場所 4年 1組教室

児童数 男子18名女子20名

1. 単元名 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを「日本の自慢！伝統工芸の魅力リーフレット」に書こう

教材名 「世界にはこる和紙／百科事典での調べ方／伝統工芸のよさを伝えよう」

2. 児童の実態と本単元の意図

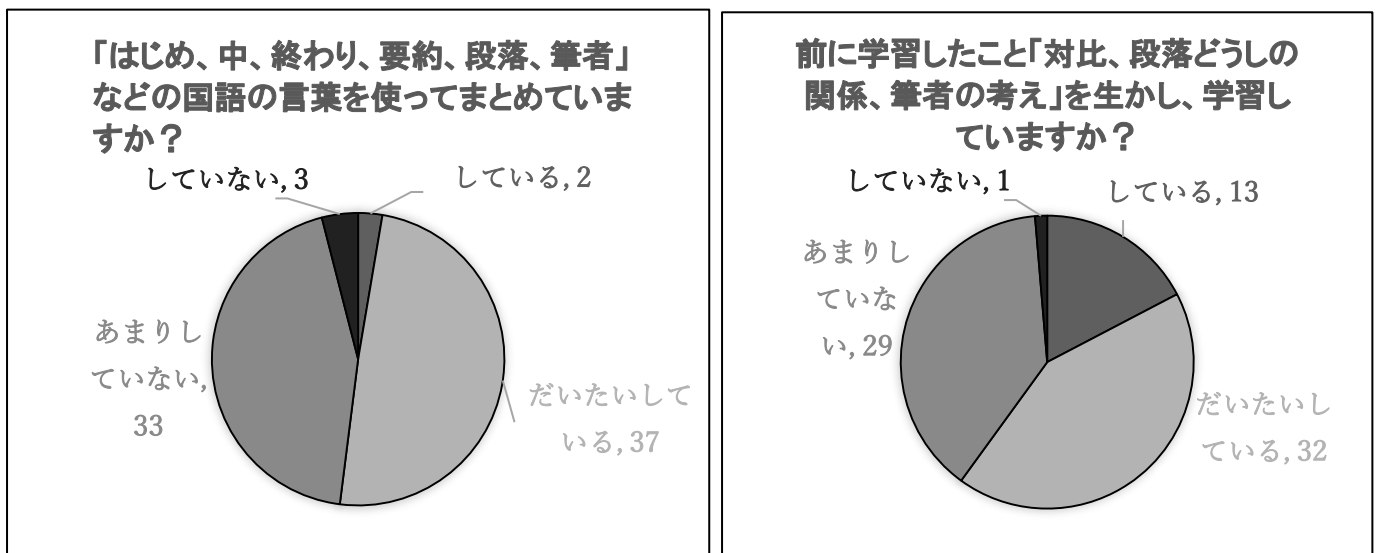
(1) 児童について

本学級の児童は、学習の中で積極的に自分の考えを記述したり、友達と意見交換をしたりしている。学習を通して、今まで知らなかった新しい知識を得ることに対して、嬉しさや楽しさを感じる児童が多い。しかし、全体での発表場面になると発言者に偏りが見られ、自分の考えに自信を持ってない児童も少なくない。

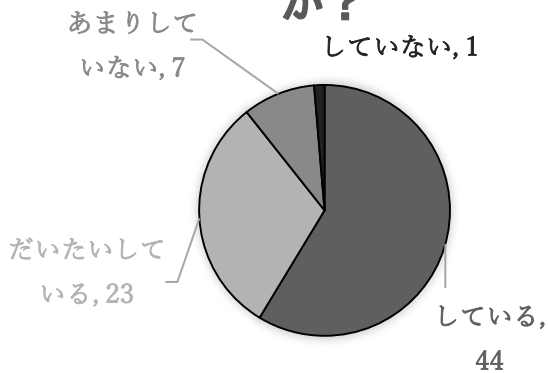
説明文の学習では、昨年度『すがたをかえる大豆』『食べ物のひみつを教えます』といった学習を通して、話題と事例の書かれ方を捉え、内容を読み取る活動を行った。さらに学んだことを生かした言語活動として、自分で選んだ食べ物のひみつについて調べ、適切な事例を用いたり、構成や順序に気を付けたりして書く活動にも取り組んできた。4年生の1学期には、『アップとルーズ』の学習を通して、筆者の考えに対する自分の考えをまとめる活動を行った。さらに、全文シートを使用して段落相互の関係を読みとる活動も行ってきた。活動を通して、説明文を読み進めることの楽しさに気づき、筆者の主張や事例について自分の考えと比較しながら学習内容を深めていくことができた。しかし、自分の考えを述べる際には、考えを更に強調させるために必要な根拠となる文章を探し、まとめることに課題がある。

埼玉県学力・学習状況調査の結果では、情報の扱い方に関する項目では、国語辞典の使い方に即した問題に対して、正答率が高かった。しかし、「話すこと・聞くこと・書くこと」の項目の正答率が低く、課題が見られた。「読むこと」に関しては、文の役割や、説明する文章の書き方の良さを見つけられる児童も多い。物語文『一つの花』の学習では、文章中の言葉を一つ一つ丁寧に読み取り、登場人物の気持ちや様子を考えることができた。書くことについても、自分の伝えたいことを明確にし、文章の構成を考えながら書こうとする児童もいる。一方で、問いに対する答えを正確に読み取ることができない児童や何をどのように書けばよいのかを見つけられない児童も見られる。

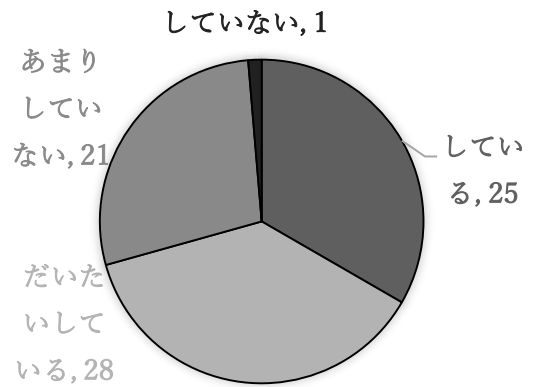
校内で統一したアンケートの結果は以下の通りである。



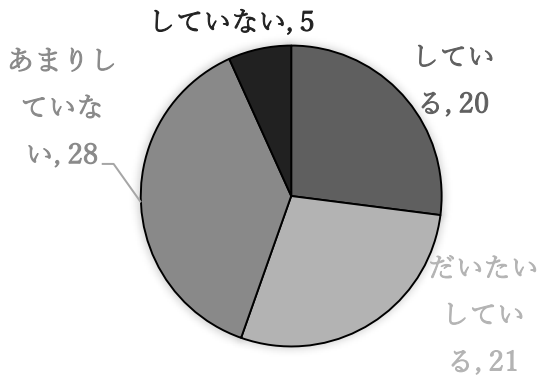
友達の考えをきき、自分の考えや感想をもっていますか？



『考えるときに使おう』を使って、自分の考えをまとめていますか？



『考えるときに使おう』を使って、友達に伝えていますか？



このような結果から、「考えるときに使おう」から、必要な語句やキーワードを使って自分の考えや感想をまとめている児童が多数いるが、本単元を通して、さらに自分の考えを友達に伝える力を養っていきたい。また、説明文で用いる国語の言葉を使ってまとめたり、既習事項を次の学習に繋げたりすることに対して自信を持ってできていると答えた児童が少ない。これまでの説明文の学習で培われてきたものを、意識的に活用して、汎用性のある力にまで高める必要がある。

(2) 単元について

本単元は、『世界にほこる和紙』を読んで、筆者の説明の仕方を捉えたり要約したりした後、『伝統工芸のよさについて伝えよう』で、百科事典などを活用し、伝統工芸について調べたことをリーフレットにまとめる活動を行うという、複合単元である。

説明文は、「はじめ」と「おわり」に、「和紙のもつよさ」と「使うわたしたちの気持ちを表せることが和紙のよさ」であることが述べられた双括型の文章である。「中」は、大きく二つに分けられている。前半は、和紙が洋紙と比べて「やぶれにくく」、「長持ちする」という二つの特徴を挙げている。それが日本や世界の博物館で使われていることを示し、説得力をもたせている。後半は、和紙が「自分の気持ちを表す方法の一つとして和紙が使われてきた」ことを示している。また、「世界にほこる和紙」という題名は、筆者の主張を端的に表している。

リーフレットにまとめるには、中心となる語や文を見つけて要約する力が必要となる。要約は、上巻から

扱ってきたが、児童にとって簡単にできるものではない。中心となる語や文を考え、組み立てや文量も意識しながら、伝えたいことを簡潔に伝えなければならない。しかし、伝えたいことを、組み立てを考えて簡潔に伝えることは、今後の児童の実生活においても必要な力であり、様々な場面で活用することになるものである。実態に応じて、それぞれの学習過程において適切な支援を行いながら、児童の主体的な学びの場となるようにしたい。

(3) 指導について

本単元のゴールは、自分で選んだ伝統工芸のよさについて調べ、リーフレットにまとめることである。そのために、本教材では「中心となる語や文を見つけて要約する」、「考えに対する理由や事例の関係を明確にする」この2つの力が重要となってくる。はじめの学習で児童にゴールを提示し、その活動に向かって「読むこと」と「書くこと」の学習を行うことを、単元を通して児童に意識させることで主体的な学びを促していく。

「世界にほこる和紙」は、構成が捉えやすく、考えと理由の関係を捉えたり、中心となる語や文を見つけたりする学習に適している。ここで行う要約の学習は上巻ですすでに取り扱っているが、本単元ではさらに定着を図っていききたい。そのために、既習事項を振り返り、文章の構成や言葉に注目して読み取することを再度確認していく。

主体的に学ぶために伝え合い、学び合う手立てとして、事例を使っている理由について話し合う活動を取り入れた。グループで話し合いをしながら、積極的に自分の考えを伝えあっていくだけでなく、事例の良さや特徴にも気づかせていく。

第3次では、これまでに学習した要約の仕方や事例の扱い方をいかしながら、リーフレットの作成を行い、学習のまとめとする。

言語活動に関しては、「自分で選んだ伝統工芸のよさについて調べ、事例を用いて考えを述べる活動」を通して、指導していく。「よさ」や「みりよく」というものは、主観的で漠然としたものである。そのため、自分の感じる「よさ」や「みりよく」を相手に伝えるためには、具体例を示し、そう判断する理由を述べなければならない。単元を通して、事例の良さや文章とのつながりについて考えていけるよう指導したい。

3. 研究主題との関わり

(1) 研究主題

主体的に学びに向かう台小っ子の育成
～知識の理解の質を高め、確かな学力を育てる
「伝え合い、学び合う」授業づくり～

(2) 本単元で身につけさせたい基礎・基本

【本単元で身に付けさせたい基礎・基本】

- 事典の使い方を理解し使うことができる。
- 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。
- 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。
- 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。

(3) 研究の仮説に対する具体的な手立て

〈仮説1〉 語や文章に含まれている情報と情報との様々な関係を適切に捉えて、思考力や判断力、表現力などを働かせていけば、児童の知識・理解の質を高めることができ、主体的に学びに向かう児童を育てることができるであろう。

【手立て】

①板書の工夫

色わけをしたり、キーワードを書いたりし、活動の際に活用できるような板書を行う。また、写真を用いて、視覚的にもわかりやすいようにする。

②学習活動の工夫

本単元では導入の際に、学習の見通しがもてるよう、しっかりとゴールを提示する。その際に、学習の最後に作成するリーフレットを提示することで、何を目的に学習し、そのためにどんな力が必要なのかを明確にして、目的をもって学習に取り組めるようにする。

③既習事項の活用

4年生の1学期に学習した「アップとルーズ」の学習内容を子どもたちが日ごろから目にするのできる学年掲示板に掲示した。子どもたちが、学習したことをいかしたり、関連づけて学習したりできるようにしていく。

④振り返りシートの活用と視点の提示

振り返りを一枚のプリントで行うことで、学習内容や活動、自分の考えの変わり方に気づかせる。視点を明確にすることで、学習で学んだことや自分の考えをはっきりさせ、次につながるような振り返りができるよう促していく。

〈仮説2〉 取り出した情報について、整理の仕方、比較・分類の仕方、メモや記録の仕方、引用などの仕方を知り、必要な語句やキーワードを適切に使って相手に伝えることができれば、授業を通しての児童の「伝え合い、学び合う」力が高まるであろう。

【手立て】

①全文シートの活用

本文を B4 一枚にした全文のシートを活用する。線を引いたり書き込んだりするなどの活動を通して、文章の組み立てや段落相互の関係をとらえ、自分の考えを整理することができる。また、視覚的に印象付けることで、単元を通して、説明文の構成を理解していく。

②言語環境を豊かにする工夫

「考えるときに使おう」を掲示し、自分の考えを表現するための話し合いや発表、ノートに記述する際に活用できるようにしていく。視点を明確にすることで、より深い学びにつなげていけるようにする。

③対話的な学びの場（話し合う視点の明確化）

本単元では、事例を使っている理由について個人で考える時間を設けた後、グループ、学級全体へと広がって、話し合いを行っていく場を設けた。その際に、自分の考えと友達の考えを比較し、様々な考えがあることの面白さに気づかせていく。毎時間、整理した自分の考えを友達に伝える場面を設け、主体的な学びにつなげていく。

4. 単元の目標

- (1) 事典の使い方を理解し使うことができる。 【知識・技能】
- (2) 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。 【思考・判断・表現】
- (3) 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 【思考・判断・表現】
- (4) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。 【知識・技能】

5. 単元で取り上げる言語事項

学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、わかったことなどをまとめて説明する活動。
(関連：言語活動例ウ)

本単元では、調べて分かったことなどをまとめて書く言語活動が設定されている。このことによって、説明のしかたを捉えながら読んだり、文章を要約したり、百科事典や取り上げる題材に関連する書籍を読んだりする必然性が生まれている。学習を通して学んだことを生かしながら、最終的に自分自身の力でまとめていくことができるよう、指導していく。

6. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事典の使い方を理解し使っている。〈(2)イ〉 ②幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。〈(3)オ〉	①「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。〈B(1)ウ〉 ②「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。〈C(1)ウ〉	①進んで中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係の書き表し方を工夫したりしようとし、学習の見通しをもって、調べてわかったことなどをまとめて書こうとしている。

7. 指導と評価の計画 (全16時間扱い) 本時 4/16

次	時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
第1次	1	○伝統工芸について関心をもつ。 ○単元の学習のめあてを確認し、学習計画を立てる。	○伝統工芸について ○学習の見通しと計画	○実物や写真などを提示したり、社会科の学習を想起させたりして、児童の既有知識を掘り起こしていく。 ○リーフレットを作るという単元のゴールを知らせ、学習の見通しをもたせる。また、今後の学習に向けて、伝統工芸に関する

				<p>本を読み始めさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 観察・発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統工芸について関心を持ち、単元全体の学習の見通しをもって、進んで学習に取り組もうとしている。 </div>
第2次	2・3・4・5	<p>○「世界にほこる和紙」を読み、大まかな内容を捉える。</p> <p>○段落を確かめ、文章全体の構成を捉える。</p> <p>④ ○「中」に述べられている、筆者の考えの理由となる二つのことを読み取る。</p> <p>○「中」で、どのような事例が何を説明するために述べられているのかを読み取り、筆者の主張とのつながりをとらえる。</p> <p>○まとめごと中心となる語や文を考え、「世界にほこる和紙」を要約する。</p>	<p>○内容の確認</p> <p>○文章の組み立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初め、中、終わり <p>○「中」の内容の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心となる語や文 ・ 「中」の役割 <p>○事例の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分類の仕方 ・ 筆者の意図 <p>○文章全体の要約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心となる語や文の確認 	<p>○題名に着目させ、和紙に関する既知知識などを交流させることで、読みの構えを作る。</p> <p>○段落を確認し、「初め」「中」「終わり」の構成を押さえる。</p> <p>○「中」には大きく二つのことが書かれていることを、言葉に着目して読み取らせる。</p> <p>○挙げられている事例が、何を説明するために述べられているのかを考えさせる。</p> <p>○「終わり」を読み、筆者が読み手に強く伝えたいことは何かを考え、それを基に中心となる語や文を考えさせる。</p>
	6・7	<p>○伝統工芸に関する本について、よさが書かれていると思うところを中心に要約する。</p> <p>○「百科事典での調べ方」を読み、百科事典の使い方を知る。</p>	<p>○調べたことの要約</p> <p>○百科事典の使い方</p>	<p>○第1次から読み進めていた本について、自分が関心をもった伝統工芸のことを要約させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【知識・技能①】</p> <p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 百科事典の使い方を理解し、使っている。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【知識・技能②】</p> <p>観察・発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気 </div>

				<p>づいている。</p> <p>【思考・判断・表現①】</p> <p>記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで内容と構成を捉えたうえで、まとまりごとに中心となる語や文を考えながら要約している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度②】</p> <p>観察・記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで中心となる語や文を見つけて要約したり、複数の本を読んだりしようとしている。
第3次	8	○伝統工芸のよさを伝えるリーフレットを作る学習の見通しをもつ。	○学習の見通しと計画	<p>○「伝統工芸のよさを伝えよう」を読み、学習の見通しをもたせる。</p> <p>○P.56・57「リーフレットの例」を参考に、必要な情報や文章構成について考えさせる。</p> <p>○文字量の目安を示す。</p> <p>○感想を伝え合う観点をあらかじめ示し、目的をもって読ませる。</p>
	9	○取り上げるものを決めて、本などで調べ、情報を整理する。	○必要な情報の整理	
	10		・内容、方法	
	11	○組み立てを考え、下書きをする。	○文章の組み立て	
	12	○レイアウトを工夫し、リーフレットを作る。	・初め、中、終わり	
	13		○資料の使い方	
	14		○文章構成	
	15		・主語と述語	
			・つなぎ言葉	
			・大切な言葉	
			○レイアウト	
	16	○友達と読み合い、感想を伝え合う。 ○単元の学習を振り返る。	○感想の交流	
			・伝統工芸の良さ	
			・資料の使い方	
			・理由	
				<p>【知識・技能③】</p> <p>観察・発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。

				<p>【思考・判断・表現②】 記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを基に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度③】 観察・記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで自分の考えとそれを支える理由や事例との関係の書き表し方を工夫して、調べて分かったことなどをまとめて書こうとしている。
--	--	--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

8 本時の学習指導（4/16時）

(1) 目標

- 「中」をよんで、事例を使っている理由について考えることができる。

(2) 評価規準

- 「中」をよんで、事例を使っている理由について考えている。**【思考・判断・表現】**

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 前時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの学習の確認 ・振り返りシートや全文シートなどをもとに、段落構成や筆者の考えの理由を確認させる。 ○既習事項の確認 ・3年生で学習した 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習計画を確認し、見通しをもって取り組ませる。 提言5 ○和紙のよさや気持ちを表す方法を具体的に確認し、この後の活動が活発になるよう促す。 理由①よさ→やぶれにくい、長持ち 理由②気持ちを表す方法→和紙 ○振り返りシートや全文シートを活用し、内容を確認できるように促す。 【仮説2】 ○板書をする際に、色わけをしたりキーワードを書いたりする。 ○既習事項を掲示し、活用できるようにする。 ・3年生の「すがたをかえる大豆」の図 	7

<p>・めあてをノートに書く。</p>	<p>事例について ○本時のめあてを確認させる。</p>	<p>めあて 事例を使っている理由について考えよう。</p>	
<p>2 音読して内容を捉える。</p>	<p>○「中」の部分を音読させる。</p>	<p>○内容をしっかり確認できるように、音読する。</p>	5
<p>3 筆者の考えの理由と一致している事例を選択する。 ・全文シート的事例が書かれているところに線をひく。</p>	<p>○事例の内容を明確にしていく。</p>	<p>○事例の内容がはっきりさせられない児童に対しては、板書のキーワードを見るように促す。 【仮説1】 ○答えを確認する際には、理由も話すようにする。 ○筆者の考えの理由に対して、適切な事例が提示されていることを確認する。(事例が逆の場合はどうか) ○それぞれの事例を短冊にして黒板に掲示。 ○事例を確認後、全文シートに色分けをする。</p>	1 0
<p>4 事例を使っている理由について話し合う。</p>	<p>○事例を使っている理由について、自分の考えをノートに記述させる。</p>	<p>○事例がなくても良いことを確認した上で、なぜ事例が書いてあるのかについて考える。 ○個人で考えをまとめた後、グループごとに話しあい、全体で共有する。 【仮説2】</p> <div data-bbox="746 1218 1315 1518" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価場面 【思考・判断・表現】 〈評価方法〉 観察、ノート ◎事例を使っている理由について話し合っている。</p> </div>	1 3
<p>5 筆者の説明の工夫を整理する。本時のまとめをする。</p>	<p>○本時の学習をまとめる。</p>	<div data-bbox="735 1621 1337 1783" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 事例を使う理由は、筆者の考えの理由がわかりやすくなるから。</p> </div> <p>○「わかりやすい」をさらに具体的に確認していく。(読み手をさらに納得させることができる。)</p>	5

<p>6 本時の学習の振り返りをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の確認。 ・振り返りを書く。 ・学習の自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○めあての確認 ○振り返りの記述 ○学んだことの確認 	<p>○学んだことが分かるように、板書を工夫する。 【仮説1】</p> <p>○今日の学習内容、自分が考えたこと、友達の意見を聞いて深めた考えなどについて振り返りを書く。 【提言6】【仮説1】</p> <p>○次時への学習意欲につなげる。</p> <p>○本時の学習を通して、児童ができるようになったことや力がついたことを教師が確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価場面</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>〈評価方法〉</p> <p>ワークシート（振り返り）の考察</p> <p>◎事例を使っている理由について考え、説明している。</p> </div>	<p>5</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------

(4) 振り返りの例

振り返りの視点

- ①はじめて知ったこと
- ②既習事項とのつながり
- ③友達の意見を聞いて、感じたこと
- ④これからどのように活用していくか

【Aの児童の振り返りの例】

今日は、事例を使っている理由について学習しました。わかったことは、事例があると筆者の伝えたいことがさらにわかりやすくなるということです。また、筆者の考えの理由にあわせて、事例が書かれているということがわかりました。友達が、「事例があると説明がわかりやすくなるから、読む人もさらに納得すると思う。」と言っていて、自分の意見と同じだなと思いました。これから、リーフレットを作るときには、事例を入れてみたいと思いました。



【Bの児童の振り返りの例】

今日は、事例を使っている理由について学習しました。わかったことは、事例があると筆者の伝えたいことがさらにわかりやすくなるということです。また、筆者の考えの理由にあわせて、事例が書かれているということがわかりました。これから、リーフレットを作るときには、事例を入れてみたいと思いました。

【Cの児童の振り返りの例】

今日は、事例を使っている理由について学習しました。事例には、いろいろなことが書いてありました。次の時間の学習も、頑張りたいです。

9. 板書計画

めあて	自力解決	話し合い	まとめ	ふりかえり
事例を使っている理由について、考えよう。	理由① 良さ	 <p>やぶれにくい↓長いせんい 長持ち↓紙の成分が変化しない</p> <p>正倉院には 世界の博物館</p>	<p>和紙</p>  <p>理由② 自分の気持ちを表す方法</p> <p>平安時代 現在</p>	事例を使っている理由 事例を使う理由は、筆者の考えの理由がわかりやすくなるから。